

とき の す
時ノ寿の森通信

第 27 号
2013. 2. 7 発行
NPO 法人 時ノ寿の森クラブ

<http://outdoor.geocities.jp/tokinosunomori>

E-mail : tokinosunomori@yahoo.co.jp

<連絡先> 掛川市中宿 1 1 3 (TEL・FAX 0537-23-0412) 「森の駅 時ノ寿」(TEL 0537-28-0082)

<もくじ>

- ★ あいさつ 「森づくりの大切さ実感するこの頃」 1
- ★ 行事案内 時ノ寿の森クラブ出演「30分・環境特番」2月17日放送 2
- 時ノ寿工房「上棟式・祝餅投げ」 2月17日開催 2
- 時ノ寿の森クラブ出演「未来を照らすいのちの森」DVD 幹旋 . . . 3
- 3/23・3/24 植樹祭スタッフの参加依頼 3
- ★ 近況報告(時ノ寿ブログより)
- 1月6日「森で経済を作る」 4
- 1月8日「NPO法人とは」 4
- 1月11日「新東名を活かす」 5
- 1月13日「2013年も安全第一で」 6
- 1月14日「今年の時ノ寿の二大事業」 7
- 1月17日「木の文化を街に残す」 8
- 1月23日「厳寒の植樹地」 8
- 1月24日「アルジェリア人質事件」 9
- 1月26日「山仕事の安全徹底」 10
- 1月27日「杉花粉が地域を興す」 10
- 1月28日「先達に学ぶ」 11
- 2月 4日「テレビ番組決定」 12

<別紙>

- ★ 時ノ寿工房イメージパース「森の中の夢工房」
- ★ 植樹祭チラシ「沖之須砂防林植樹会」
- ★ 植樹祭チラシ「掛川市立総合病院・感謝と希望の植樹祭」
- ★ 幹旋チラシ「未来を照らすいのちの森」DVD (時ノ寿の森クラブ活動収録)
- ★ 出欠連絡表「3/23・3/24 植樹祭の準備～当日スタッフ出欠回答用紙」

<あいさつ>

立春が過ぎ、春の足音が聞えるこの頃です。お元気でお過ごしでしょうか。文明発達と人口膨張により、わが国の自然・社会構造、そして人々の精神は、この半世紀の間に大きく変化してしまいました。今日、それが地球規模で起きていますが、深刻な問題がまた一

つ新たになりました。中国大陸で加速する未曾有の大気汚染は、もはや対岸の火事と侮っている場合ではありません。

かつてその道を通ってきた私たちは、世界の国々に対して「同じ轍」を踏まないようにとメッセージを送るため、今こそ「道徳のない経済は犯罪である」と言われた二宮尊徳翁の教えを胸に、「いのち」を守る国土保全を真剣に進めて行く時であると思います。

時ノ寿の森クラブは、昨年スタートした「いのちを守る『希望の森づくり』プロジェクト」(日本財団助成)を、行政をはじめ市民及び企業と協働し、「森づくりによる安全安心な都市づくり」のモデルとして推進してまいります。いよいよ今年の活動が始まりますので、会員の皆様のご支援をよろしくお願いいたします。

奇しくもこのたび、前述のことを社会に広く啓蒙するのに最高の映像ができました。一つは、静岡第一テレビ「環境特番」2月17日放送で、もう一つは、DVD「未来を照らすいのちの森」です。どちらも時ノ寿の森クラブの活動が収録された映像です。クラブ員をはじめ社会の多くの方々に、ご覧いただきたいと願っております。

必見！ 時ノ寿の森クラブの活動が 静岡第一テレビ「環境特番」で放送！！

■放送日時 2月17日(日)

午前10:55～11:25(30分間)

■番組名 「いのちの森を育てる～山村文化をもう一度～」

* 工房上棟式に参加の方、外出の方は録画撮りを！

* 県外の方は放送されません。ごめんなさい。

時ノ寿工房上棟式・祝餅投げ！

～ 伝統木造構法の重厚な柱・梁を見に来てください！

祝餅を拾って夢を広げてください！～

* 同封の時ノ寿工房イメージパースをご覧ください。

* ご家族や周囲の方々もお誘いください。お越しをお待ちしています。

と き 2月17日(日) 午後2時から

ところ 時ノ寿の森

持ち物 餅を入れる袋

斡旋！ DVD「未来を照らすいのちの森」

140 分間の宮脇昭先生の「いのちの森づくり」映像記録ですが、その中で 10 分間も「時ノ寿の森クラブ」の森林再生活動を紹介してくれています。「未来の子どもたちのために、荒廃するふるさとの森を再生しよう」と、時ノ寿の森からのメッセージのほか、間伐・下草刈り・植樹などクラブ員の元気な活動が美しい映像で収録されています。まさに「時ノ寿ノ森クラブ」のドキュメントです。ご購入くださいまして、周囲の皆様に「時ノ寿の森クラブ」の森林再生活動をPRしていただければ幸いです。

■DVD案内チラシ 同封してありますので、ご覧ください。

■ご購入申し込み 同封の NPO 法人時ノ寿の森クラブ「郵便振込用紙」により、代金 3000 円／本（送料込）をお振り込みください。代金のお振り込みを確認しまして、DVD を発送させていただきます。

植樹祭の準備・当日スタッフ ご協力をお願いします！！

～ 同封の参加連絡票に参加可否をご記入のうえ
2 月 28 日までに FAX 又は TEL してください！～

送信先：NPO 法人時ノ寿の森クラブ

FAX：0537-23-0412

■沖之須防災林「森の防波堤づくり」植樹祭

と き 3 月 23 日(土)午前 10 時～午前 11 時 30 分

ところ 沖之須防災林（掛川市大須賀地区）

内 容 同封のチラシをご覧ください。

■掛川市立総合病院「感謝と希望の植樹祭」

と き 3 月 24 日(日)午前 10 時～午前 11 時 30 分

ところ 掛川市立総合病院敷地内（掛川市杉谷南一丁目）

内 容 同封のチラシをご覧ください。

＜近況報告＞ （時ノ寿ホームページ・ブログより）

2013年1月6日(日)

森で経済を作る

1年の計は元旦にあり、新しい年の初めはメディアも各紙、各番組が、新政権での経済の行方を論じていました。東南アジアの活況の一方で、世界一の高齢社会と少子社会、そして景気低迷の中で小さな幸せを求めるといふ人々の社会観の変化が進む我が国は、政治でも経済でも人々の生活でも、考え方の大きな転換期であると思います。



坂の上の雲を求めて戦前戦後、領土まで拡大しようと無謀に走った戦争を挟み、私たち日本人の先人たちは、高く大きな希望も持って、それをかなえるために寝ても覚めても英知と工夫を重ね、また日の出から日の沈むまで労働に傾注されてきたことは、自分の祖父母や父母を思い浮かべても、その通りであると思います。

そんな我が国の発展の中で、現代に残されている国土の森林資源は、まさに当時の国策の賜ではないでしょうか。私達現代人が、この森林資源を今日の少子高齢社会の中で、多くの人々が五感で満足してくれるように活用する時であると思います。森林は、人口が集中する都市ではなく、人口が減少する山間地にあります。狭い国土の我が国におけるこの立地条件は、経済のあらゆる基本原則に沿うものであると思います。

木材市場は、毎年これ以上悪くはならないだろうと言われてきましたが、去年は史上最悪の状況でした。前述したような、山林の立地条件、日本人の五感に着目し、今年の目標は「時ノ寿の森で経済を作る」です。

2013年1月8日(火)

NPO法人とは

今年初めのわがNPO法人理事会がありました。昨年1年間の活動成果を称えるとともに、今後の発展に向けて組織体制や財政運営の基盤を確立することが大切であることを、今年の大きな課題として認識し合いました。

わがNPO法人は、設立してからまだ



満3年に達していませんが、活動目的の森林再生をめざした事業は年々拡大しています。NPOの社会的な評価は、事業費の規模ではないと思いますが、わがNPOの目的である森林再生の社会的課題の大きさから考えれば、事業費規模は、本来目的の達成度を推し量るバロメーターとしては当を得ていると思います。そういう視点において、わがNPO法人の3年間の実績については、大いに評価できるものであると思います。対外的に自慢するのではなく、活動の成果を常に認識し、謙虚さを忘れることなく誇りに思い、これを土台にして一層の活動に臨んでいくということが大切であると思います。

そう言えば、新年早々の1月6日付の毎日新聞紙上でした。元世界銀行副総裁の西水美恵子氏が、「NPO成果実らすため」と題し、寄付文化のない我が国において、NPOの目的達成には社会からの自由な寄付こそが不可欠であると説きつつ、一方では、自由な寄付こそ厳しさが必要ですと、NPOに対して成果の重要性を求めていました。

西水氏はその文中で、NPOに対する寄付をされる場合の指針として次のように言われています。「何よりも大切なのは、NPOを率いるリーダーシップの善し悪しと経営品質を吟味することで、寄付の唯一の条件と言っても過言ではない。評価できる内容でなければ、活動にどれほど賛同しようとも、寄付はよすほうがいい。……。」と。NPOは、肝に銘じて置かなければいけません。

2013年1月11日(金)

新東名を活かす

11日は鏡開きですが、東日本大震災から1年10カ月になります。社会も本格的に始動しましたが、新しい政権の下での経済対策により、被災地の復興はもちろんのこと、あらゆる産業が活性化して国民総生産が上がる仕組みづくりしてもらいたいものです。

わがNPO法人の活動拠点近くには、昨年静岡県内162km区間が開通し



た新東名が通っています。ご存知のとおり新東名は、豊かな森林を擁する静岡県の内陸部を走っているのです。静岡県知事は、新東名を活かした内陸フロンティア構想を県政の最重要政策に位置付けています。私も、大いに可能性のある21世紀ビジョンであると思います。

そして、時ノ寿の森へ通じる林道脇にはパーキングエリアがあるので、このPAにスマートインターチェンジを設置することが、最高の内陸フロンティア構想であると思います。時ノ寿の森クラブとしては、新東名は森林資源を日本社会に流通させる大動脈であると考えています。日本のど真ん中に位置し、森林資源の豊富な立地条件、再生可能

エネルギーへの転換など、木材産業はどん底ですが、まさにピンチはチャンスで、これから大いなる可能性があると思います。

わがクラブ会員のM・Yさんからいただいた年賀状に、新東名インターチェンジはとても便利です、と書いてあったことを思い出しました。M・Yさんの家から、今度出来た掛川・森インターチェンジまでは車で3分の位置なのです。

2013年1月13日(日)

2013も安全第一で

2013年の時ノ寿の森クラブは、今日から活動を始めました。本年も安全第一で、森林再生活動をして参りますので、ご協力をよろしくお願いいたします。

今日は、会員9名が集まってくれました。たき火を囲みながら、今年の抱負を語った後、みんなで「時ノ寿の森」の入口に建っている阿弥陀堂に参り、1年の安全を祈願しました。



今日の活動は、2月17日に上棟を予定している時ノ寿工房の敷地の日照をさえぎっている支障木を伐採することでした。久しぶりに時ノ寿の森に威勢よくチェーンソーの音が響き、1年が始まったという気持ちになりました。

今日参加してくれた会員たちの顔ぶれを思い出してみると、なんと今年還暦を迎える私が年下で、一番の長老は今年80歳を迎えるAさんでした。山仕事は体力が必要であることは間違いありませんが、それ以上に必要なことは、根気と知恵、そして安全に対する慎重さと気配りではないかと痛感しました。

60～80歳の中老年9人のチームによる山仕事でしたが、今日の成果は立派なものでした。みんなの根気と知恵によって、工房敷地南側は、驚くようにすっきりしました。山間地では冬の日照は貴重ですが、これで工房も日照時間が1時間くらいは増えたと思います。

追伸、初山の誓いで「今年も安全第一」と言っておきながら、私が作業中、足首に伐採木が滑り落ちてきまして、途中リタイヤさせられました。前述のとおりの実感をするとともに、今年1年の教訓をさせてもらった思いです。足の腫れと痛みはキツイものでしたが、幸い骨には異常がありませんでした。

自らの反省を踏まえ、会員の皆様についても、作業の前の安全に対する慎重さと気配りは、常に念頭をお願いいたします。

2013年1月14日(月)

今年の時ノ寿の二大事業

今年の時ノ寿の森クラブの二大事業の一つは、昨年引き続き「いのちを守る『希望の森づくり』プロジェクト」(日本財団助成事業)により、市内で2万本を超える植樹を行い、行政と協働し「森づくりで安心安全なまちづくり」を推進することです。



もう一つは、時ノ寿の森を会員及び市民の皆さんに、森林や木の魅力を知ってもらい、いつでも・誰でも・気軽に森林に親しんでもらえる交流施設を時ノ寿の森に建設することです。

この二つの事業は、時ノ寿の森クラブの設立目的を目指し活動して行く上で、その基盤となる大事な事業である思っていますが、二つの事業の性質は異なります。森林再生は、森林都市掛川市にとって市を挙げて未来に続けて行くべき、全市民的な社会課題であります。したがって、わがNPOが、先頭に立って森林再生運動を全市に広げるために、大きな植樹事業を行うのです。NPOの「ミッション」としての性格が強いのが一つ目の事業です。この事業は、正直言って会員の皆様には大変な労苦をお願いするものであります。

どんな立派な、かつ崇高な意志を持たれている会員であっても、社会的なミッションばかりを声高にNPO活動をしていたら、モチベーションは萎えてしまいます。森林再生のように、膨大なエネルギーと時間を要す社会的課題に挑戦して行くためには、会員自らが森を好きになることが一番大切であると思っています。そのための事業が、二つ目の時ノ寿工房建築事業(セブン・イレブン記念財団助成事業)です。

時ノ寿の森クラブの森林再生活動の理念は、「近者悦ばば 遠者来る」(論語)の精神です。会員自らが森林を楽しみながら、荒廃する森林を再生して行けば、広く社会からも森林に関心が集まり、人々の生活と森林が身近に繋がり、木材利用は拡大し、森林の公益的機能の重要性も理解され、社会全体によって森林が守られていくと考えています。時ノ寿工房は、会員の皆様をはじめ広く市民の皆様が森林を親しむ場として、利用価値のある施設にしたいと思っています。

今年の時ノ寿の二大事業は、前述したように二つの公益財団が、わがNPOの活動理念と今後の展望に賛同いただいで実施できるものであります。その期待に応え、森林再生活動を未来に持続させていくため、会員員一丸となって二大事業を成功させなければならないと思っています。よろしく願いいたします。

写真は、伝統的木造構法で建築する時ノ寿工房に使用される重さ 300kg もありそうな立派な梁です。2月17日の上棟式が楽しみです。

2013年1月17日(木)

木の文化を街に残す

掛川市は、森林が市面積の半分を占める正真正銘の森林都市です。しかし、文明の移ろいの中で、森林が生産する木の文化が人々の生活から離れていることは、街の景色を見れば顕著です。街の中に木の香を漂わしてくれていた何軒かの製材工場も、今では見るできません。



身近な製材工場で加工された木材が、街の中で使用されていた時代とは、街の景色には必ず伝統的な木造家屋が移っていました。それが、日本の街の原風景だと思います。イギリスの街であれば、それが石になるでしょう。時代とともに、変化してもいいと思いますが、木の文化が街から消えてしまうような産業や経済の構造が変化してしまうのは、文明の発展でもなく、街の発展でもなく、未来の人々は社会経済に流されて大事な文化を捨ててしまった先人の選択を悔やむでしょう。

掛川市では、そんな木の文化の象徴ともいえる伝統的な木造家屋を市民と行政の協働による力で残していこうとする運動が進みつつあります。一つは、街の顔である東海道線掛川駅舎が80年以上も経つ木造のままですが、今年からそのまま木造で耐震性のある建物にする工事が始まります。それに合わせて、この度街の中の旧家であった「松が岡」建物群が行政の決断で、所有者から買い取り残されることになりました。今日は、民間所有者から市に引き渡される式がありました。

厳しい社会経済事情が続く今日ですが、こんな時代であるからこそ、司馬遼太郎の「坂の上の雲」ではありませんが、現代を生きる私達が未来の見据えて、掛川市民の「心」を大切にしたい都市づくりをして行くことが大切であると思いました。今日の式には、わがNPOからも6人の会員が出席しました。

2013年1月23日(水)

厳寒の植樹地

昨年10月27日、3300人の参加者によって植えていただいた掛川市袋井市統合新病院の「いのちの森」の23000本の苗木は、厳寒の今冬に加え、連日の遠州空っ風が吹き荒れる中で、



どんな様子だろうと見て来ました。

みなさん、ご安心ください。23000本の苗木の九分九厘は、根付いてくれています。先日見に行った朝も、厳しい寒波来週により植樹地に上る階段の土は、霜柱が立っていましたが、植樹地に敷き詰められたマルチングの稲藁が、苗木をしっかりと守ってくれていました。シラカシ、ヤブツバキ、タブノキ、ユズリハなどは、まだ浅い春の日差しに葉っぱが輝いていました。北東のかなたには、富士山が真っ白に見えていました。

5月1日開院に向け、新病院の建物工事は完了し、外回りの道路、駐車場、緑化の工事が突貫で行われていました。23000本の苗木は、これから日増しに強くなる日射しを浴びながら、開院時には見事な新緑の芽を膨らませ、皆さんを迎えてくれることでしょう。

2013年1月24日(木)

アルジェリア人質事件

アルジェリアで起きた民間人を襲った武装集団による人質事件で、10人も日本人が犠牲になってしまった。北アフリカの砂漠地帯の未来のための資源開発のために、祖国の家族と離れ、遠い異国の地で心血を注いでいる民間人の命を情けなく奪った犯人グループ御の非道は、言語道断である。しかし、そのような民間人の尊い命が、あまりに軽々しく扱われたアルジェリア軍の拙速な



犯人掃討作戦には、日本人としては納得も理解もできない。イスラム系国家の治安維持のための考え方の基本を知らないが、それがこれらの国々のセオリーだとすれば、文明の発達した地球の人類として、あまりに情けなく悲しい思いに心が沈む。

現代の国際社会においても、これが現実であるとするならば、資源小国の日本としては、技術貿易立国を目指してきた従来方針を顧みる必要がありはしないか。人類の豊かな未来のためには、資源開発は不可欠に違いない。しかし、自国のあらゆる資源に対して日本が誇ってきた科学や工業の技術の総力を尽くしてきたと言えるだろうか。特に、100年以内という短期間で再生循環可能な木材資源の有効活用については、国も企業も努力してとは言えないだろう。

こんな非道な行為が日常に起きる現実を思えば、異国の地に傾けてきたハイリスク、ハイリターン、ハイテクノロジーのスタンスを、国も企業も見直し、国内の再生可能な資源に本気に心血を注いで見てはどーだろう。

2013年1月26日(土)

山仕事の安全徹底

今冬一番の寒気団の襲来で、全国各地で大雪の被害が出ています。温暖な東海地方でも、今日は一日中顔を切るような冷たい風が吹き、雪雲が次から次に流れて来て、時折風花が舞っていました。

そんな厳しい天候にもかかわらず、今日から始まった杉花粉採取プロジェクトに地元住民4人、会員12人が集まってくれ、里山に放置されて杉花粉がびっしりと付いた杉の木を切り、枝を回収する作業に休憩時間もなく熱中してくれました。ご苦労様でした。お陰で、予定の24ケースを研究機関に出荷することが出来ました。

次から次に、森林再生活動持続のためのチャレンジを続けていますが、自然や山仕事を絶対に甘く見てはいけないということを反省しました。物事は、慣れた所に過ちが起こると言われますが、まさに森林再生活動を6年継続してきたわがNPOとしては、今こそ山仕事の危険を再認識し、事故防止の為に安全施業の徹底が追求されるべきだと痛感しました。

今日、杉の木伐採中に1名がケガをしてしまいました。NPOとしての安全管理が不十分であったことを深く反省しています。また、ケガをされた会員T・Mさんには、心からお詫び申し上げます。これを教訓に、森林再生活動の持続の為に作業の安全には万全を期してまいりますので、会員の皆様にはこれに懲りることなく、今後ともご支援をよろしくお願いいたします。



2013年1月27日(日)

杉花粉が地域を興す

研究のための杉花粉採取が始まった。今年の杉花粉の飛散量は、昨年に比べれば相当多いという情報だが、厳しい寒さの影響で例年よりも杉の雄花の快化開花時期が遅れているため、まだ掛川市倉真地内の杉の花粉は飛散していない。

昨日から始まった今年の杉花粉採取は、量が限定されていて、また花粉が熟す直前の約1週間の短期決戦だ。



このような条件のもとでの杉花粉採取であるため、花粉の状態を観察しつつ昨日から開始したというもの。短期に一定量を採取しなければならないため、大量に花粉の付いている杉の木を選定し、その木を切り倒し、花粉の付いている枝を回収するという作業を人海戦術でやらなければならない。そして、その回収された枝から、花粉の大量に付いている部分のみを摘採して箱に詰めるという作業だが、これも人海戦術だ。

これらの一連の杉花粉採取を見れば分かるように、地域の至る所に大量に存在し、かつ地域住民からは嫌われ者の「杉花粉」が、地域のマンパワーによって採取され、その資源が日本人の3人に1人は花粉症と言われるアレルギー症候群の治療に使われる薬ができれば、これはまさにノーベル賞ものである。それは大げさかもしれないが、そんな夢のような大プロジェクトである。ある会社とあるNPOと連携してのプロジェクトだが、地域の再生、国土の保全のために、このプロジェクトを成功させたい。

今日も一日中、クラブ員、地域住民の皆さん、寒い中での作業に朝から晩までご苦労様でした。安全第一でたのみます。

2013年1月28日(月)

先達に学ぶ

わがクラブ会員は、老若男女、県内外、個人法人等々社会の多様な人々で構成されています。どなたも、未来のために森林が大切であるとの思いから、クラブに入会して森林再生のために何かの貢献をしてくれています。嬉しい限りです。昨年入会してくれた会員の一人に80歳になる方がいますが、その方は長年、森林組合の作業班で山仕事に携わって来られ、言わば山仕事の達人です。その方は、過去現役時代に、時ノ寿の森も知り尽くしており、わがNPOの理念に共鳴してくれて、残る人生の中でご自分の経験や知識を少しでも提供でいたらと活動に参加してくれています。



一昨日と昨日の二日間も、厳寒の中で先頭に立って杉の木を切り倒す作業に当たってくれました。昨日は、切り株直径60cmを超えるほどの超大木を、見事に倒したい方向に無事に倒してくれました。一昨日の作業中の事故を反省しながら、このように立派な山仕事の達人が会員にいますから、今後は会員たちは大いに山仕事を学ばなければいけないと思いました。昨日の会員Y・Aさんの伐採作業は、とても勉強になりました。

2013年2月4日(月)

テレビ番組決定

先日、速報をしましたが、時ノ寿の森クラブの活動が静岡第一テレビ番組「環境特番」で放送されることが正式に決定しました。放送の日時は、2月17日(日)10:55～11:25(30分間)で、番組名は「いのちの森を育てる～山村文化をもう一度～」です。クラブ会員の皆さんだけでなく、一人でも多くの人に番組を見ていただきたいと思います。



番組では、今こそ森林再生が大切であるということを、今から38年前に廃村となった静岡県掛川市倉真地内の「大沢集落」を舞台に、そこで取り組む「NPO法人時ノ寿の森クラブ」の活動が紹介されます。

地球温暖化が猛スピードで進む中、新政権の強い日本を作るという政策の下で、公共事業のオンパレードが始まろうとしています。その公共事業において、最も重要視してほしいことは、日本の国土を豊かな状態で未来に引き継ぐための森林再生事業であると、安倍政権に強く主張したいと思います。番組を通じて多くの皆さんに、共感いただければ嬉しいです。